

水戸藩死事録下編

八



始



水戸藩死事録下編八

戊辰己巳二役事ニ死スル者

○香取繁五郎、大番組儀左衛門遵道ノ六子、戊辰夏、
叛臣國ヲ脱スル者、會津ニ投シ以テ王師ニ抗ス、
繁五郎遊撃隊士ヲ以テ、軍ニ從ヒ之ヲ討シ、北越
ヨリ陸奥ニ進ミ、賊ト人惶ニ戰ヒ、丸ニ中テ死ス、
年二十二、藩主其後ヲ録セリ、

○鮎澤國維、字廉夫、伊大夫ト稱ス、高橋諸往ノ二子、
愛諸ノ弟、鮎澤正行ノ為ニ養ハレ、天保ノ末家ヲ

継キ小十人組トナリ、弘道館舎長ヲ兼ヌ、甲辰ノ
變兄愛諸等ト誓テ、國冤ヲ洗雪セントテ謀リ、奸
臣ノ忌ム所トナリ、歩士組ニ左遷シ舎長ヲ罷ラ
ル、尋テ職ヲ褫ハレ家ニ錮ス、後小十人組矢倉奉
行寺社役ヲ歴、安政中勘定奉行ニ進ミ、藩邸ニ祇
役ス、戊午ノ秋勅書ノ下ルヤ、國維速ニ之ヲ列藩
ニ廣布セントス、議遂ニ行ハレス、明年夏幕府大
ニ疑獄ヲ起ス、國維免ルヘカラサルヲ知り、郷ニ
歸リ永訣ヲ期シ、復江戸ニ抵ル、幾ハク無シテ幕
府國維ヲ評定所ニ召シ鞫訊シ、遂ニ獄ニ下ス、萬

延元年十一月流ニ處セラレ、豊後佐伯ニ謫ス、居
ル丁三年免サレテ國ニ歸リ、勘定奉行ニ復シ、奥
右筆頭取トナル、甲子ノ難、柳原照煦等ト俱ニ南
上シ、松平頼徳ヲ護シ、那珂湊ニ據ル、後武田正生
ト共ニ西上シ、潛ニ京師ニ入り、大徳寺ニ匿レ國
事恢復ヲ圖ル、戊辰正月衆ト勅書ヲ奉シ東下シ、
郡奉行トナリ賊徒ヲ追討シ陸奥白川ニ到ル、八
月目附ニ進ム、叛賊城ニ逼ルニ及ヒ、倉卒ノ間國
維力ヲ竭シ、諸隊ヲ督シ部署ヲ定メ、十月朔衆ニ
先テ弘道館ニ進ミ奮戦シテ死ス、年四十五以下

此事ニ死スル者、皆其後ヲ恤セラレ、
久米長守、鐵之進ト稱ス、新七郎長量ノ長子、林机
廻ニ選入ス、安政ノ初、米艦ノ横濱ニ来ルヤ、藩邸
ヲ守衛シ、變ニ備フ、後馬廻組、大番組、小納戸役書
院番組ヲ歴、先手同心頭ニ進ム、慶應二年、長守、權
臣政ヲ專ラニスルヲ憤リ、同志六十餘人ト江戸
ニ赴キ、岡山藩邸ニ投シ、奸人ヲ黜テ、國政ヲ回復
セントテ、訴フ、留ル一歳餘、戊辰春、家ニ歸リ、原職
ニ復ス、叛賊ノ兵ヲ及スヤ、長守部下ヲ率キ出テ
國境ヲ守リ、馬頭、大岩、大山田等ノ地ニ距戦ス、已

ニシテ、賊間道ヨリ城ニ迫ル、長守追躡城下ニ至
リ、十月朔、弘道館ニ戦死ス、年五十二、
谷重威、晋太郎ト稱ス、佐之衛門重任ノ長子、馬廻
組ヨリ大番組ニ遷ル、甲子ノ難ニ衆ト共ニ藩邸
ニ至リ、松平頼徳ヲ守衛シ、那珂湊ニ據リ、自首シ
テ古河邑ニ錮セラル、戊辰春、赦ニ遇ヒ、家ニ歸リ、
叛徒ヲ追撃シ、白河ニ到ル、尋テ先手同心頭トナ
ル、十月朔、賊兵城ニ逼ル、重威隊卒ヲ引キ、賊ヲ弘
道館ニ攻メ、重創ヲ被ル、事平ク、即テ其功ヲ賞シ、
持筒頭格ニ班ス、十一月朔、遂ニ創ヲ病テ死ス、年

三十七

○太田資豊、鉞之助ト稱ス、書院番頭、專吉資信ノ弟、十月朔、賊ト弘道館ニ戰ヒ、重傷ヲ負ヒ、明日死ス、年二十二、

○里見親尚、平三ト稱ス、四郎左衛門親長ノ二子、親賢ノ弟、幼ヨリ武藝ヲ好ミ、尤モ槍術ニ長ス、安政ノ初、特ニ俸祿ヲ賜ヒ、小十人組トナル、後馬廻組ヲ歴、次番ニ進ム、甲子ノ變、同志ト俱ニ南上シ、松平頼徳ヲ護シ、那珂湊ニ據ル、後自首シテ、久留里邑ニ錮セラレ、戊辰春宥サレテ、國ニ歸リ、叛賊ヲ

追テ、白河ニ至ル、尋テ中奥番トナル、十月朔、賊ヲ弘道館ニ攻メ、槍ヲ揮テ、数人ヲ斃シ、遂ニ之ニ死ス、年四十三、

○児玉匡方、市之允ト稱ス、傳助就永ノ長子、林机廻ニ選入ス、馬廻組大番組ヲ歴、書院番組ニ轉ス、賊ヲ弘道館ニ攻メ、十月朔、戰死ス、年五十六、

○萩谷大有、理衛門ト稱ス、八助徹ノ長子、林机廻ニ選入シ、小十人組ニ補セラレ、馬廻組大番組、書院番組ニ累遷ス、十月朔、賊ヲ弘道館ニ攻メ、槍ヲ手ニシテ、勇進、丸ニ中テ死ス、年五十四、

○皆川脩徳、源吾ト稱ス、八十吉榮達ノ長子、安政ノ初、米人横濱ニ来ル、砲隊ヲ以テ藩邸ニ祇役ス、尋テ林机廻ニ選入シ、馬廻組ニ補セラレ公子傳ヲ兼ヌ、文久ノ季大番組ニ進ミ、慶篤ニ從ヒ京師ニ朝ス、慶篤ノ弟昭訓、昭武相繼テ闕下ニ宿衛ス、脩徳終始之カ傳トナリ、留ルト四年、慶應ノ末、昭武佛國ニ使ス、脩徳從テ海ニ航ス、戊辰春、歸朝シ、軍ニ属シテ叛賊ヲ白河ニ追撃ス、己ニシテ郡奉行見習トナル、十月朔、賊城ニ逼ル、脩徳距戰九ニ中リ、後七日死ス、年三十三、

○松本重有、金左衛門ト稱ス、益子種吉ノ二子、松本将之介忠親ノ養子トナル、嘉永ノ初家ヲ承ケ歩士組、小十人組、馬廻組ヲ歴大番組ニ轉シ、使役ヲ兼ヌ、十月朔、弘道館ニ戰死ス、年四十六、

○園部正徳、壮之助ト稱ス、小宮山昌堅ノ三子、園部五郎衛門良貴ノ養子トナリ、小十人組、歩士目附、馬廻組ヲ歴大番組ニ進ム、十月ノ役ニ不明門ヲ守リ、二日流丸ニ中リ死ス、年三十、

○菊池重勝、五郎衛門ト稱ス、平八郎重施ノ五子、槍術ヲ善クシ、弘道館教師トナリ、特ニ俸祿ヲ賜フ、

安政ノ末、歩士目附トナリ、小十人組、奥右筆、馬廻組、大番組ニ累遷ス、十月ノ役ニ、園部正徳ト同シク丸ニ中リ、同日死ス、年四十七、

○福田道正、重兵衛ト稱ス、與三衛門為悦ノ長子、林机廻ニ選入ス、馬廻組ヨリ大番組ニ進ミ、十月朔、賊ヲ田見小路ニ防キ戰死ス、年三十七、

○佐藤成美、平三郎ト稱ス、量平延昌ノ嗣子、歩士組、歩士目附ヨリ諸職ヲ歴大番組ニ遷ル、十月朔、杉山門下ニ戰死ス、年二十四、

○新家政徳、半之允ト稱ス、忠衛門政忠ノ長子ナリ、林

机廻ニ選入ス、馬廻組ヨリ次番雇トナリ、公子傳ヲ兼ネ、元治ノ初京師ニ祇役ス、後大番組ニ轉ス、

十月朔、弘道館ニ戰死ス、年二十三、

○平山繁纓、兵藏ト稱ス、淺井忠敬ノ二子、平山兵藏繁勝ノ養子トナリ、歩士組、土藏番組、奥番組、新番組ヲ歴、新番組頭ニ移ル、十月朔、海老久保柵ヲ守リ、賊ト戰テ死ス、年五十五、

○淺川親長、安之允ト稱ス、平八郎親敬ノ三子、學ヲ好ミ、武技ヲ善クシ、屢褒賞ヲ被ル、米艦始テ内海ニ入ルヤ、砲隊ヲ以テ藩邸ニ祇役ス、尋テ弘道館

舎長トナル、萬延元年特ニ俸祿ヲ賜ヒ、歩士組ト
ナリ、弘道館訓導ヲ兼ヌ、後小十人組ヲ歴、馬廻組
ニ進ム、十月朔、賊数人城中ニ突入ス、親長彰考館
ヲ守リ防戦、丸ニ中ル二十五日死ス、年四十四、
江幡矩美、初兵助ト稱シ、後定衛門ニ更ム、定衛門
道禮ノ長子、天保ノ初歩士列ニ班シ、郡方勤トナ
リ、尋テ資格ヲ歩士目附ノ次ニ進メ、檢田ノ事ニ
預ル、後歩士組、奥番組ヲ歴、新番組ニ遷ル、十月朔、
杉山門下ニ戦テ死ス、年六十一、
菊池隆吉、久平ト稱ス、彌介隆政ノ長子、林机廻ニ

選入ス、歩士組、歩士組頭、奥番組ヲ歴、新番組トナ
ル、十月朔、杉山河岸ニ戦ヒ、丸ニ中テ死ス、年五十、
○武石定勝、傳之允ト稱ス、傳兵衛定吉ノ長子、林机
廻ニ選入ス、歩士組、歩士目附、奥右筆ヲ歴、馬廻組
トナル、甲子ノ難、正議ヲ唱フルヲ以テ、有司ノ忌
ム所トナリ、職ヲ褫ハル、戊辰年舉ラレテ小十人
目附トナル、十月朔、賊ヲ弘道館ニ撃チ力戦シテ
死ス、年二十七、
○金子忠勝、七之允ト稱ス、皆川榮優ノ三子、金子七
之允、忠義ノ為ニ子養セラレ、歩士目附次詰ヲ歴

小十人目附ニ遷ル、元治ノ初、京師ニ祇役ス、尋テ石川明德等ト共ニ昭訓ノ神位ヲ護シ、東下シ官舎ニ錮セラル、戊辰年原職ニ復ス、十月朔弘道館ニ戰死ス、年四十五、

○亀井善積、字ハト稱ス、津衛門善繼ノ嗣子、林机廻ニ選入ス、歩士組ヨリ歩士目附トナル、甲子ノ夏、權臣ノ忌ム所トナリ、小十人組ニ外補ス、後小十人目附ニ進ム、十月朔弘道館ニ入、賊ト戰テ死ス、年二十六、

○望月秀正、新十郎ト稱ス、隼人盛重ノ長子、小十人組、戊辰九月二十九日、賊ヲ茨城郡粟村ニ拒キ、戰死ス、年三十一、

○初瀬克孝、兵大夫ト稱ス、與三兵衛克紹ノ長子、幼ヨリ武技ヲ好ミ、砲術ヲ善クス、林机廻ニ選入ス、安政文久ノ間、歩士組歩士組頭、小十人組、歩士目附等ニ累遷ス、甲子ノ變ニ南上シ、松平頼徳ニ屬シ、那珂湊ニ據ル、後自首シテ古河邑ニ錮セラル、戊辰春赦ニ遇ヒ家ニ歸リ、尋テ前職ニ復ス、叛賊ノ入侵スル、克孝出テ渡里村ヲ守ル、俄ニシテ賊城ニ逼ル、克孝馳歸リ、賊ノ背後ヲ衝キ、十月朔南

町ニ戰死ス、年三十九、

○片岡秀義、五郎介ト稱ス、勝藏秀之ノ長子、林机廻ニ選入シ、文久慶應ノ間、京師ニ宿衛ス、戊辰正月、衆ト俱ニ敕書ヲ奉シ、東下ス、尋テ叛賊ヲ追ヒ、白河ニ至ル、歩士目附ニ舉ケラル、十月朔、弘道館ニ戰死ス、年二十五、

○野島惟純、弁太郎ト稱ス、佐三郎惟孝ノ長子、文久三年春、寄合組ニ編入シ、慶篤ニ從ヒ、京師ニ朝ス、留テ禁闕ヲ守衛シ、後國ニ歸ル、甲子ノ難、南上シ、松平頼徳ニ属シテ、那珂湊ニ屯シ、自首シテ、久留

里邑ニ錮セララル、戊辰春、赦ヲ獲、郷里ニ歸リ、歩士組ニ班シ、郡方勤トナル、尋テ歩士目附ニ遷ル、九月、民兵ヲ率テ、賊ヲ下野馬頭ニ拒キ、轉シテ石塚等ニ戰フ、十月朔、杉山門下ニ戰死ス、年三十一、
○雨宮廣行、新助ト稱ス、又衛門廣精ノ三子、文久三年春、寄合組ニ編入シ、京師ニ赴キ、遂ニ昭武ヲ護シ、京師ニ宿衛スル、四年、戊辰正月、勅書ヲ奉シテ、東歸シ、叛徒ヲ追撃シテ、白河ニ進ム、特ニ俸祿ヲ賜ヒ、歩士組トナリ、軍務ニ預ル、十月朔、弘道館ニ戰死ス、年三十二、

○增山信義、初徳之允ト稱シ、後理左衛門ト改ム、理左衛門茂由ノ嗣子、歩士組、十月朔、弘道館ニ戦ヒ、重創ヲ負フ、十一月十一日死ス、年二十七、

○萩君正、留蔵ト稱ス、介衛門君敷ノ三子、兄君顕ノ後ヲ承ケ、歩士組、十月朔、南郭ニ戦死ス、年二十七、
○岡部義知、忠三郎ト稱ス、修驗泉蔵院祐勝ノ二子、岡部佐五衛門敬明ノ為ニ子養セラレ、與カトナル、義知砲術ニ長スルヲ以テ、屢、褒賞ヲ被リ、歩士組ニ班ス、甲子ノ難、南上シ、松平頼徳ニ從ヒ、那珂湊ニ屯ス、後自首シテ忍邑ニ錮セラル、戊辰春、宥

サレテ國ニ歸リ、歩士組ニ進ミ、賊ヲ追ヒ、白河ニ到ル、十月朔、賊ト弘道館ニ戦ヒ、鉛ニ中リ、十一月九日創ヲ以テ死ス、年五十、

○梶信元、留四郎ト稱ス、平山忠告ノ四子、甲子ノ變、南上シ、松平頼徳ニ從ヒ、那珂湊ニ據ル、後自首、忍邑ニ錮セラル、戊辰春、赦ヲ得、國ニ還リ、賊徒ヲ追撃ス、尋テ梶信基ノ後ヲ紹キ、小普請組トナル、十月朔、北郭ヲ守リ、奮戦シテ死ス、年二十一、

○堀和勝、時善之介ト稱ス、先手同心、頭角之允、勝久ノ二子、戊辰九月、遊撃隊ヲ以テ、賊ヲ石塚村ニ拒

キ二十九日戦死ス、年十九、

○馬場秀胤、祐四郎ト稱ス、矢倉奉行祐助高胤ノ二子、遊撃隊、十月朔、弘道館ニ戦没ス、年二十五、

○小田朝恆、次郎ト稱ス、書院番組與三郎朝道ノ三子、遊撃隊、十月朔、賊ト北郭ニ戦ヒ、重傷ヲ被リ、十二月五日死ス、年二十一、

○山中幸敬、金吉ト稱ス、大番組亥三郎幸忠ノ二子、遊撃隊ヲ以テ、堀和勝時ト同シク死ス、年十六、

○芳賀重固、莊三郎ト稱ス、大番組莊兵衛敏久ノ弟、十月朔、賊ト上金町ニ戦テ死ス、年四十三、

○川又功亮、捨吉ト稱ス、馬廻組列、勘定方勤、才介時亮ノ三子、十月ノ役、遊撃隊ヲ以テ、田見小路ヲ守リ、賊ト戦テ重創ヲ負ヒ、十一日死ス、年十六、

○田沼見國、知、荒次郎ト稱ス、奥番組四郎次郎國重ノ二子、遊撃隊ヲ以テ、堀和勝時ト同ク死ス、年十六、

○三田寺正直、秀太郎ト稱ス、歩士格、善太郎積善ノ長子、甲子ノ難、南上シ、松平頼徳ヲ護シ、那珂湊ニ屯ス、後自首シテ、忍邑ニ錮セラル、戊辰春赦サレテ、國ニ還リ、郡方勤トナル、十月朔、弘道館ニ戦ヒ

銃丸ニ中リ、後三日死ス、年三十一、

○明珍義臣、恒衛門ト稱ス、甲冑師、文庫役列、十月朔、賊ト下金町ニ戰テ死ス、年六十九、

○潮田徳風、獵之助ト稱ス、蟠龍官廣ノ長子、與力、十月朔、賊ト西町ニ戰テ死ス、年五十四、

○檜山義制、總一郎ト稱ス、與力、十月朔、賊ト戰ヒ負傷シ、退テ創ヲ裹ミ、復進テ奮闘、城門外ニ死ス、年三十四、

○小泉信安、藤三郎ト稱ス、文久ノ末、執政鈴木重義ニ屬シテ京師ヲ守衛シ、後與力トナル、明治元年、

衆ト共ニ敕書ヲ奉シ東下シ、賊徒ヲ追討シ白河ニ至テ還ル、十月朔、北郭ニ戰ヒ、丸ニ中リ死ス、年三十、

○鈴木隆亮、要介ト稱ス、那珂郡大宮村郷士ナリ、十月朔、弘道館ニ戰ヒ死ス、年四十、已下二十七人皆同日戰死ス、

○大森元茂、左平次ト稱ス、下野那須郡小口村郷士、弘道館ニ戰死ス、年三十四、

○赤須通清、隆三郎ト稱ス、久慈郡里宮村佐都神社大宮司道寛ノ三子、城門外ニ戰死ス、年三十一、

○黒澤利貞、助七ト稱ス、那珂郡石神外宿村郷士、理兵衛利義ノ長子、弘道館門外ニ戦死ス、年三十五。
○佐藤義次、彦七ト稱ス、多賀郡介川村郷士、並兵衛門義親ノ長子、弘道館ニ戦死ス、年三十七。
○塙誠之、與兵衛ト稱ス、醫學館元締、弘道館ニ戦死ス、年四十一。

○中田友人、金兵衛ト稱ス、留付列金方元締タリ、常磐村ニ戦テ死ス、年五十、子友于、昌吉ト稱ス、金方手代タリ、父ト共ニ戦死ス、年二十七。

○龍川一信、全太郎ト稱ス、文庫役俊平一謙ノ長子、

甲子ノ變ニ南上シ、松平頼徳ヲ護シ、那珂湊ニ據ル、後自首シテ東金ニ錮セラル、戊辰春赦サレ、家ニ歸ル、十月ノ役、渡里村金澤坂ヲ扼守ス、既ニシテ賊間道ヨリ城ニ迫ル、一信追躡下、金町ニ戦死ス、年二十七。

○大越進衛、留三郎ト稱ス、與力誠之助吉徳ノ弟、下金町ニ戦テ死ス、年十七。

○石井秀清、信之介ト稱ス、與力倉次郎秀勝ノ長子、弘道館ニ戦死ス、年十七。

○清水輝勝、末藏ト稱ス、與力金司衛門輝金ノ三子、

泉町ニ戰テ死ス、年二十三、

○關良知忠之允ト稱ス、郡方手代彰考館ニ戰死ス、年三十一、

○木下正義清吉ト稱ス、漁業改役手代格、弘道館ニ戰死ス、年三十四、

○關為一、俊之助ト稱ス、目附同心組手代格、城門外ニ戰テ死ス、年二十七、

○宮田正吉、清三郎ト稱ス、目附同心組手代格、弘道館ニ戰死ス、年三十五、

○植田貞宜、莊八ト稱ス、押役手代格、夕リ、田見小路

ニ戰死ス、年三十六、

○川崎正幹、總吉ト稱ス、若年寄附屬同心組、弘道館ニ戰死ス、年二十四、

○和田永政、鉦吉ト稱ス、持筒同心組、南郭ニ戰死ス、年二十三、

○小貫薰衛、諒之助ト稱ス、先手同心、小頭、弘道館ニ戰死ス、年三十五、以下九人、皆同所ニ戰死ス、

○郡司喜時、捨吉ト稱ス、先手同心組、死ス、年十八、

○木村誠政、金吾ト稱ス、先手同心組、死ス、年三十二、

○蔀庸顯、捨五郎ト稱ス、先手同心組、死ス、年三十五、

○前野通久、泰次郎ト稱ス、先手同心組、死ス年三十
四、

○鈴木義貞、彦衛門ト稱ス、先手同心組、死ス年二十
八、

○荒模重義、藏之介ト稱ス、先手同心組、死ス年四十
四、

○宇留野季慶、藤三郎ト稱ス、先手同心組、死ス年二
十五、

○中根和行、八之助ト稱ス、町方同心組、甲子ノ難ニ
赴キ、從テ那珂湊ニ據ル、後自首、生邑ニ錮セラ

ル、戊辰春赦サレテ郷ニ還ル、是ニ至テ戰死ス、年
三十四、

○小池知之、泉三郎ト稱ス、漁業改役、死ス年二十五、

○大曾根正則、金之助ト稱ス、先手同心組、九月二十
九日石塚村ニ戰死ス、年三十二、

○照山則重、莊藏ト稱ス、先手同心組、大曾根正則ト
同シク死ス、年二十九、

○萩谷信義、傳衛門ト稱ス、郡方手代、弘道館ニ戰ヒ
重傷ヲ負ヒ、後四日死ス、年二十六、

○山口宗壽、佐吉ト稱ス、旗同心組、弘道館ニ戰ヒ、創

ヲ負ヒ明日死ス、年四十六、
○佐藤正則、正助ト稱ス、先手同心組、弘道館ニ戰テ
創ヲ被リ、九日死ス、年三十七、

○村岡正明、常之允ト稱ス、國老山野邊義藝ノ家士、
十月朔、賊ヲ北郭ニ撃テ、創ヲ負フ、屈セス、再ヒ杉
山門ニ戰テ死ス、年十八、已下四人皆義藝ノ家士、
同レク戰死ス、

○谷田川正徳、萬ト稱ス、弘道館ニ戰死ス、年二十九、

○細谷民徳、八歳ト稱ス、北郭ニ戰ヒ、丸ニ中テ死ス、
年四十八、

○安藤為好、津衛門ト稱ス、細谷民徳ト同ク戰死ス、
年四十、

○岡田安國、彌八郎ト稱ス、馬口勞町ニ戰死ス、年六
十三、

○山崎信義、龜太郎ト稱ス、國老松平頼導ノ家士、十
月朔、信義其主家南郭ノ第ヲ守リ、進テ弘道館ニ
戰死ス、年二十六、

○河西信愛、織部ト稱ス、頼導ノ家士、戊辰九月二十

九日、賊賴遵ノ采地長倉ヲ侵ス、信愛兵ヲ督シテ之ヲ防ク、己ニシテ賊間道ヨリ城ニ逼ルト聞キ、追躡シテ南郭ニ至リ、十月朔彰考館側ニ戦ヒ、九ニ中テ死ス、年四十二、

○山田元親、吉兵衛ト稱ス、寺社奉行興津良得ノ僕、十月朔、良得ニ從ヒ、城門外ニ戦ヒ、創ヲ負フ、明日死ス、年三十、

○綿引信道、孝五郎ト稱ス、茨城郡飯富村組頭、九月二十九日、賊ト渡里村金澤坂ニ戦テ死ス、年四十七、

○小泉梅吉、茨城郡常磐村農、十月朔、田見小路郡廳ヲ守リ、賊ノ為ニ銃殺セラル、年十八、

○砂押熊吉、常磐村農、十月朔、弘道館ニ入、九ニ中テ死ス、年五十、

○漆田平八、茨城郡上坏村農、九月二十九日、賊兵ヲ本村ニ拒キ、之ニ死ス、年四十二、

○大越專介、漆田平八ト同里、十月朔、南郭ニ戦テ死ス、年二十一、

○宇留野源五郎、那珂郡小野村農、九月二十八日、賊兵ト本村ニ戦ニ死ス、年四十一、

○小池倉藏那珂郡中居村農十月朔南郭ニ戰テ死ス年二十六

○櫻村道之介那珂郡古徳村農十月ノ役ニ負傷シ明年正月死ス

○關總衛門那珂郡吉九村農九月二十九日大岩村ヲ守リ賊ト戰テ死ス年二十三

○山田彦兵衛久慈郡小目村農十月朔弘道館ニ戰没ス年三十三

○佐藤初太郎越後苅輪郡久米村ノ人茨城郡細谷村郷士佐藤欣榮ノ僕トナリ十月朔杉山ニアリ

賊ノ為ニ砲創ヲ負ヒ五日死ス年二十九

○野口勝章友太郎ト稱ス多賀郡磯原村郷士戊辰六月藩命ヲ以テ奥羽ニ赴キ叛徒ノ北走スル者

ヲ偵察ス陸奥信夫郡瀬上村ニ在賊ノ謀知スル所トナリ八月日失捕者ト鬪テ死ス年五十二

○關口包廣孝之丞ト稱ス多賀郡友部村郷士列鉞之介包繼ノ父戊辰夏叛徒北走スル者ヲ尾撃シ

伊師村ニ至ル六月十七日之ト戰テ死ス年四十七

○關口守政熊五郎ト稱ス目附同心組戊辰秋下總

ニ赴キ、奸徒南走スル者ヲ逮捕ス、九月二十日一
賊ヲ香取郡火方村ニ縛ス、重創ヲ蒙リ即日死ス、
年三十七、

○飯塚儀衛門、多賀郡伊師村農、戊辰六月叛賊遁走
スル者ヲ追討シ、十七日本村ニ戦テ死ス、年四十
六、

○大森由之介、多賀郡徳田村農、賊徒逃走スル者ヲ
尾撃シ、小生瀬村ニ至リ、三月十三日戦死ス、年二
十四、

○川又吉之介、茨城郡常磐村農、十月ノ役賊ヲ追撃

シ、七日下總八日市場ニ戦テ死ス、年十八、

○早川兵吉、久慈郡大和田村農、十月ノ役賊ヲ追跡
シ、五日八日市場ニ戦死ス、年二十四、

○和田喜兵衛、久慈郡磯部村農、十月六日八日市場
ニ戦死ス、年三十一、

○齋藤傳藏、新治郡川中子村農、賊下總ニ逃ル、ニ
及ヒ追撃シ、十月七日匝瑳郡松山ニ戦死ス、年四
十七、

○森隼之進、茨城郡市ノ谷村農、同郡鯉淵村ニ寓ス
奸賊南走スルニ及ヒ之ヲ逮捕シ、十月朔賊ニ小

林村ニ遇フ、克スシテ死ス、年六十五。

○村田正克、彌一郎ト稱ス、正五郎敏行ノ嗣子、林机廻ニ選入ス、文久ノ春、慶篤ニ從ヒ京師ニ入り、遂ニ留テ關下ヲ警衛ス、戊辰春勅書ヲ奉シテ東下シ、賊徒ヲ追撃シ、陸奥白河ニ至ル、歸ル、後歩士目附ニ舉ラル、明年春朝廷命シテ幕府遺臣ヲ皆館ニ討ス、正克輕銳隊長トナリ、四月二十九日進テ江指ニ戰ヒ、重傷ヲ負ヒ、五月朔死ス、年二十五。

○渡邊正名、吉太郎ト稱ス、喜介正徳ノ長子、林机廻ニ選入ス、甲子ノ變難ニ赴キ、那珂湊ニ據ル、後自首シテ古河邑ニ錮セラル、明治ノ初赦ニ逢テ國ニ歸リ、叛臣逃走スルニ及ヒ、追討シテ白河ニ到ル、尋テ歩士目附トナル、函館ノ役、輕銳隊副長トナリ、四月二十九日、矢不來ニ戰死ス、年二十八。

○原昌敬、隼之介ト稱ス、政之介昌富ノ長子、甲子ノ難ニ南上シ、松平頼徳ニ屬シ、那珂湊ニ屯ス、後自首シテ忍邑ニ錮セラル、戊辰春赦サレテ家ニ還リ、尋テ賊徒ヲ尾撃シ、白河ニ至ル、是年歩士目附

ニ擢ラル、函館ノ役、渡邊正名ト同シク戦死ス、年二十一、

○小池得壽、勇之介ト稱ス、砲卒、函館ノ役、五月十一日、赤川ニ戦死ス、年二十二、

○鴨川光重、辰藏ト稱ス、輕銳隊卒、函館ノ役、四月二十九日、茂邊地原ニ戦死ス、年二十六、

○長島重義、源太郎ト稱ス、築造隊卒、函館ノ役、小池得壽ト同シク戦死ス、年二十一、

○千葉信胤、藤七ト稱ス、築造隊卒、函館ノ役、渡邊正名ト同シク戦死ス、年二十九、

終